

■大学院受験者インタビュー2

国士舘大学／経営学研究科／経営学専攻 進学 研究テーマ「雇用システム」

2010年7月インターカルト入学（5レベル）⇒2012年3月卒業（10レベル）

中国の大学では人的資源管理を学んだが、この分野で就職するには業務経験が必要とされる。大学を卒業しただけでは難しいので、日本の大学院に留学をして就職につなげたいと考えた。当初から大学院進学を考えていたが、日本語に自信がなく、大学院の受験準備にも集中していなかった。2011年の秋に桜美林大学の経営学研究科に合格。その後、国士舘大学経営学研究科に合格した。

● 来日以前

特に日本の大学院について調べなかった。早大や東大くらいしか知らなかった。

● 受験する大学や指導教授の探し方

中国では私立大学のイメージがあまりよくないが、日本では私立にも国立にもそれぞれ特徴のある良い大学がある。また、中国の大学と日本の大学では専門分野の分け方が違って、自分の専門「人的資源管理」が日本の大学のどの研究科に含まれるのかわからなかった。「経営学研究科」に進めばいいとわかったのは、かなり時間がたってから。受験校を決めるには、先輩や友人が受験する大学院、インターネットで調べたことを参考にした。日本の大学院受験や大学のシステムは中国とかなり違うので、来日したらずからまず情報を集めることが必要。分野は違っても、日本の大学院に在学している人に話を聞くチャンスを作る方がいい。

● 教授との面談・説明会

教授には特に連絡を取らなかった。国士舘大学のオープンキャンパスでは教授と話ことができ、研究テーマについて質問したり、専門科目の試験について勉強方法をアドバイスしてもらったりした。これが役に立った。

● 研究計画書

研究テーマを決めるためにはインターネットを活用した。論文を一つ一つ読まなかったが、中国の検索サイト『百度』で、関心があるテーマの論文のタイトルを調べて、それを参考にした。タイトルを調べるだけでも、いろいろなことがわかる。

● 筆記試験の準備

国士舘大学のオープンキャンパスで教授から『経営学能力検定試験公式テキスト』（中央経済社）という本を薦められ、これで勉強した。試験の8割くらいはこの本から出題されたし、とてもわかりやすい日本語で書かれているので、他の大学の受験勉強にも役立つと思う。他に、『経営学専門用語』の本も勉強した。専門科目の本は、専門書よりも日本の一般人向けの基礎的なものがわかりやすくていいと思う。また、社会や経済の分野の一般常識を得るためには、毎日ネット上の『日本経済新聞』『読売新聞』の記事を読んでみた。見出しだけでも必ず目を通し、専門に関係のあるテーマ、中国経済関係のあるニュースは、中国語のニュースサイトを見て中国語で内容を確認した。

● 口頭試験・面接試験

外国人留学生のための面接試験対策の本を読んだ。インターカルトの先生たちにも模擬面接の練習を何度もしてもらった。頭の中で考えるだけでなく、実際に練習することは必要。面接試験の時には、苦手な質問をされる前に自分の方から積極的に得意な話題で話した。研究テーマについては詳しく聞かれるので、聞かれそうなことを想定し、よく準備する必要がある。わからないことを聞かれた時には無理して話さず、正直に「わかりません」と答える方が印象はいいようだ。

● 後輩にアドバイス

大学院に入学したくて来日したのに、準備を始めるのがとても遅かった。2011年3月の震災で一度進学を諦めようかと思ったが、結局もう一度来日した。しかし、それから、大学院の準備はなかなか始めないで、受験に立ち向かうことから逃げていたと思う。ずっと消極的だった。もっと早くから専門科目の勉強をしっかりとったり、大学院をさがしたりすれば良かった。プレッシャーに押されていつも気持ちは憂鬱だったが、具体的な行動には移さなかった。日本では国の大学受験の時のように家族や先生が叱ったり、励ましたり、プレッシャーをかけたりはしてくれないので、自分で強い気持ちを持たなければいけない。

■采访大学院入学者 2

■ 国士馆大学/经营学研究科/经营学专攻 考入

■ 研究主题《雇用系统》

2010年7月草苑日本語学校入学（5水准），2012年3月毕业（10水准）

国内大学本科学的是“人力资源管理”，大学毕业后想在国内从事相关专业方面的工作，但很多都要求实际的业务经验，就此萌生了去日本留学，读大学院，进一步学习，为了将来的就职打好基础的想法。当初开始要进入日本的大学院，但是对日语没有自信，所以没有集中经历来准备大学院入学考试。2011年秋季，樱美林大学经营学研究科合格。之后，国士馆大学经营学研究科合格。

●来日本之前

对日本的大学院没有做特别的调查，只知道东大和早大而已。

●查找要报考的大学、指导教授的方法

在中国，私立大学的印象不是很好，但在日本，不管是国立还是私立，有很多具有各自特点的好学校。还有，日本大学的专业领域的分类和制定与中国不同，不清楚自己所学的“人力资源管理”专业包含在哪个研究科。过了很长时间才了解到了应该升入“经营学研究科”。决定报考学校时，主要考虑了师长、友人所报考的大学院以及网上查找的信息。因为日本的大学院考试以及大学的系统与中国有很大的区别，所以来日本后有必要首先收集相关情报信息。虽然专业不同，也有必要寻找听取大学院在校生的经验的机会。

●与教授面谈・说明会

没有特别地跟教授取得联系。参加了国士馆大学的“开放校园”活动，与教授进行谈话，向教授提问关于研究主题的相关内容，请教了针对专业考试的学习方法。这点帮助很大。

●笔试的准备

主要学习了参加国士馆大学的“开放校园”活动时，教授推荐的一本《经营学能力检定考试公式教材》的书籍，考题的80%出自此书。这本书的内容，都是以通俗易懂的日语来书写的，认为准备其他学校的笔试时也会有帮助。此外，也学习了《经营学专门用语》这本书。选择专业科目的书籍时，认为针对普通日本人的基础性的书籍比专业书更容易理解而且更好。另外，为了习得社会、经济领域的一般常识，每天在网上阅读《日本经济新闻》、《读卖新闻》。只是题目也好，一定要过目。只要是与自己的专业有关联、与中国经济有关联，再次在中文网页上用中文进行确认。

●口试・面试

阅读了针对外国留学生的面试对策的书。接受了草苑日本語学校老师的多次的面试模拟训练。光凭脑子里想是不行的，一定要进行实际练习。面试时，被提问自己不擅长的的问题之前，主动并积极地说出自己擅长的话题。面试时，会问到研究主题相关内容，所以要提前做好可能被问到的内容。不知道时，不要勉强，直接说不知道，实事求是也有可能留有好的印象。

●给后辈的建议

来日之前开始要考入大学院的目标是很明确的，但过了很长时间之后才开始了准备。2011年3月震灾时，一度也想过放弃，但还是返回来了。但是，从此也没有开始准备大学院升学，也有过一些逃避考试的想法，一直很消极。有点后悔当时没有早点开始学习专业科目、没有早一点开始找大学院。一直都有压力，心情纠结，但没有正式的转移到具体的行动当中。在日本，不像在中国考大学时一样，被父母、老师挨说，被表扬，被施加压力。所以为了自己的理想，自己一定要抱有坚强的信念。